

古文ドリル：敬語の訳し方 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） **著作権**：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：敬語の訳し方ルール

古文の敬語は **現代語訳に正確に反映** させる必要がある。

敬語の種類	訳の形
尊敬語	お～になる／～なさる
謙譲語	お～する／～申し上げる／～いたす
丁寧語	～です／～ます／～ございます

訳し方の鉄則

尊敬語（動作主への敬意）

- 給ふ（四段） → ～なさる／お～になる
- おはす／おはします → いらっしゃる
- 仰す／のたまふ → おっしゃる
- 召す → お召しになる／お呼びになる
- 御覧ず → ご覧になる
- 大殿籠る → お休みになる
- 思す／思しめす → お思いになる
- きこしめす → お聞きになる／召し上がる
- あそばす → なさる（高貴な人の動作）
- 遣はす → 派遣なさる

謙譲語（動作の受け手への敬意）

- 奉る → 差し上げる
- 参る → 参上する／差し上げる
- 申す／聞こゆ → 申し上げる
- 仕うまつる／つかうまつる → お仕えする（「す」の謙譲で「いたす」とも）

- ・ 賜ふ（下二段） → いただく
- ・ 承る → お受けする／伺う
- ・ まかる／まかづ → 退出する（「まかる」は「(地方へ) 下る」の意も。「参上する」と訳すのは「参る・まうづ」）
- ・ まうづ → 参上する（寺社なら参詣する）
- ・ 侍り／候ふ（さぶらふ）（本動詞で「貴人のそばにいる」意） → お仕えする／お控えする

丁寧語（聞き手・読み手への敬意）

- ・ 侍り → ～ございます／～です／～ます
- ・ 候ふ／さぶらふ → ～ございます／～です／～ます

二重敬語（最高敬語）

形	訳
せたまふ／させたまふ	お～になる／～なさる
しめたまふ	お～なさる
仰せらる	おっしゃる
思しめす	お思いになる

→ 二重敬語は **天皇・皇族・摂関級** への最高敬意（地の文の場合。会話文では、話し手が目上の相手に使うこともある）。ただし「せ・させ」は使役のこともある（下のコツ②）。

動詞別・尊敬/謙譲両用注意

動詞	尊敬	謙譲
奉る	召し上がる／お召しになる／お乗りになる	差し上げる
参る	召し上がる（食事）	参上する／差し上げる
賜ふ	四段＝お与えになる（尊敬）	下二段＝いただく（謙譲）
給ふ	四段＝～なさる（尊敬）	下二段＝～ております・～させていただく（謙譲・会話文や手紙のみ）

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

上の「訳し方の鉄則」は、敬語を訳すときの基本の決まり。
こちらは **試験本番ですばやく答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 敬語動詞の 直訳パターン を丸暗記（語数限定なので最強）

入試で出るのは決まった敬語動詞だけ。まず **形と訳の対応** を覚える（「奉る」「参る」「給ふ」「侍り・候ふ」のように訳が分かれる語は、下のコツ③④と「よくある引っかけ」で見分ける）： - 「のたまふ／仰す」→ おっしゃる - 「おはす／おはします」→ いらっしゃる - 「思す／思しめす」→ お思いになる - 「御覧ず」→ ご覧になる - 「奉る」→ 差し上げる（謙譲）／お召しになる（尊敬） - 「申す／聞こゆ」→ 申し上げる - 「侍り／候ふ」→ ～です・～ます

コツ② 「せたまふ・させたまふ」は、まず使役か尊敬かを確かめる

「せたまふ／させたまふ／しめたまふ」を見たら： - 「～に」「～をして」など、**その動作をさせられる人** が書いてあれば **使役＋尊敬**（「～させなさる」）。例：「人々に歌よませたまふ」＝人々に歌を詠ませなさる - させられる人がいなければ **尊敬＋尊敬（二重敬語）**。訳は「お～になる／～なさる」（ただの尊敬と同じ訳でよい）。地の文では、動作主は天皇・中宮など最高位の人が多い - 「御覧ぜさせたまふ」は「（貴人に）お見せになる」（使役）になるのがふつう

コツ③ 「給ふ」の活用で訳が分岐（最頻出）

- ・ **四段の「給ふ」** → 尊敬「～なさる」
- ・ **下二段の「給ふ」** → 謙譲「～ております／～させていただく」（会話・手紙の中で、話し手自身の「思ふ・見る・聞く・知る」に付く時のみ。「～申し上げる」とは訳さない）

例：「見**給ふる**」（下二段連体形）→ 「見ております」。四段か下二段かは形で見分ける（下二段は「たまへ・たまへ・たまふ・たまふる・たまふれ」と活用する。「たまへず」「たまへし」なら下二段、「たまはず」「たまひし」なら四段。「たまへる」「たまへど」は四段（已然形に「り」「ど」が付いた形）なので、「たまへ」だけで下二段と決めない）

コツ④ 「奉る」「参る」は その人自身が食べる・飲む・着る・乗る ときだけ尊敬

- ・ 貴人が自分で「御酒を奉る」「御衣を奉る」「御車に奉る」→ 「召し上がる／お召しになる／お乗りになる」（尊敬）
- ・ 貴人が自分で「参る」＋飲食物 → 「召し上がる」（尊敬）
- ・ 人に差し上げる・人のもとへ行くときの「奉る／参る」→ 謙譲（差し上げる／参上する）。「酒を奉る」でも、人に差し上げるのなら謙譲

試験本番でのチェック順序

1. 敬語動詞を特定し、**暗記した訳語** を当てはめる
 2. 「給ふ」なら **活用形** で四段（尊敬）／下二段（謙譲）を判別
 3. 「奉る・参る」なら **動作の内容** で尊敬／謙譲を判別
 4. 「せたまふ」系は、させられる人（～に・～をして）がいれば使役＋尊敬「～させなさる」、いなければ最高敬語（二重敬語）で「お～になる／～なさる」
 5. 補助動詞の場合は「お～になる／お～申し上げる／～です・～ます」の形で接続
- この順番で見れば、**すばやく** 答えが出せます。

よくある引っかけ

- 補助動詞の「給ふ」を「与える」と訳す → 補助動詞は「～なさる」（下二段なら「～ております」）
- 「申す」を「言う」と訳す → 必ず「申し上げる」（謙譲を反映）
- 「侍り」を「いる」と訳す → 補助なら「～です・～ます」、本動詞でも「お仕えする／ございます」
- 二重敬語を訳に反映できない → 「お～になる」「～なさる」と尊敬の形を明示
- 「せ・させ」を全部尊敬と決めつける → させられる人（～に）がいれば使役で「～させなさる」

採点表

- 基礎（Q1～Q20）： /20
- 標準（Q21～Q50）： /30
- 応用（Q51～Q80）： /30
- 入試レベル（Q81～Q100）： /20
- 合計： /100

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

主要敬語の基本訳。

Q1. 現代語訳せよ。

帝、御文書か**せたまふ**。

Q2. 現代語訳せよ。

御文を奉る。

Q3. 現代語訳せよ。

「これは尊し」と申す。

Q4. 現代語訳せよ。

我も参り侍り。

Q5. 現代語訳せよ。

中宮、御文を御覧ず。

Q6. 現代語訳せよ。

御所に参る。

Q7. 現代語訳せよ。

法皇、山里におはす。

Q8. 現代語訳せよ。

君に仕うまつる。

Q9. 現代語訳せよ。

上、仰せらる。

Q10. 現代語訳せよ。

大納言、御前に候ふ。

Q11. 現代語訳せよ。

帝、御物の怪に苦しませたまふ。

Q12. 現代語訳せよ。

中將、御前よりまかる。

Q13. 現代語訳せよ。

院、大殿籠る。

Q14. 現代語訳せよ。

御物を賜ふ（下二段）。

Q15. 現代語訳せよ。

「いま参り候ふ」と申す。

Q16. 現代語訳せよ。

中宮、御文書か**せたまふ**を、人にも見せ**させたまふ**。

Q17. 現代語訳せよ。

帝、御文を中宮に**御覽ぜさせたまふ**。

Q18. 現代語訳せよ。

「日高くなり侍りぬ。はや起き**させたまへ**」

Q19. 現代語訳せよ。

御供仕うまつり**侍り**。

Q20. 現代語訳せよ。

法皇、御使ひを**遣はす**。

基礎編 / 20

【第2部】標準編（Q21～Q50）

両用語・複合敬語・特殊敬語。

Q21. 現代語訳せよ。

帝、御酒を**参る**。

Q22. 現代語訳せよ。

上、御衣を奉る。

Q23. 現代語訳せよ。

中將、御琴をいとおもしろく弾き給ふ。

Q24. 現代語訳せよ。(会話文)

「我もさなむ思ひたまふる」

Q25. 現代語訳せよ。

殿、御文を賜ふ（四段）。

Q26. 現代語訳せよ。

中將、帝より禄を賜はる。

Q27. 現代語訳せよ。

帝、御覧じて仰せらる。

Q28. 現代語訳せよ。

大臣、帝に御馬を奉らむとす。

Q29. 現代語訳せよ。

「いまはまかり出で侍りなむ」

Q30. 現代語訳せよ。

御前にさぶらふ人々、皆寝入りぬ。

Q31. 現代語訳せよ。

中宮、御物語をいと愛でさせたまふ。

Q32. 現代語訳せよ。

君も、今宵の月を御覧ずらむ。

Q33. 現代語訳せよ。

「承り侍りぬ」と申す。

Q34. 現代語訳せよ。

院、かの僧の事を聞こしめしけり。

Q35. 現代語訳せよ。

我、御前に御文を聞こえつ。

Q36. 現代語訳せよ。

「これ、御覧じ候へ」

Q37. 現代語訳せよ。

帝、蔵人を御前に召す。

Q38. 現代語訳せよ。

「殿は今、御寝なる」

Q39. 現代語訳せよ。

上、御歌をあそばす。

Q40. 現代語訳せよ。

中宮、女房に御髪をけづらせたまふ。

Q41. 現代語訳せよ。

「君のおほせのこと、承りて侍り」

Q42. 現代語訳せよ。

帝、御物の怪に悩みたまふを、皇后いと心苦しと思しめす。

Q43. 現代語訳せよ。

御使ひ、御物を奉りて、退き出づ。

Q44. 現代語訳せよ。(会話文)

「我、君のために仕うまつり侍らばや」

Q45. 現代語訳せよ。

大納言、いとたけ高くおはす。

Q46. 現代語訳せよ。

上、雪を御覧じて、「いとをかし」とのたまふ。

Q47. 現代語訳せよ。

「我が宿にまかりたりしに、人もなし」

Q48. 現代語訳せよ。

中宮、白き御衣を召したり。

Q49. 現代語訳せよ。

院、御物を賜はせたまふ。

Q50. 現代語訳せよ。

「畏まり侍り」と申す。

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51～Q80)

複合・係り結び・物語表現。

Q51. 現代語訳せよ。

帝、御琴を**あそばす**を、中宮、御簾の内にて**聞こしめす**。

Q52. 現代語訳せよ。

「**承り**侍りて、いとうれしくこそ思ひ**たまふれ**」

Q53. 現代語訳せよ。

御使ひ、まうでて、御文を**奉る**。

Q54. 現代語訳せよ。

上、若宮をいみじうかなしと思**しめす**。

Q55. 現代語訳せよ。

「この絵、宮に**御覧ぜさせたまへ**」

Q56. 現代語訳せよ。

大納言、中宮に御琴を奉りたまふ。

Q57. 現代語訳せよ。

「我も参り候はむ」

Q58. 現代語訳せよ。

帝、もの思はしげにおはしましけり。

Q59. 現代語訳せよ。

中宮、ものもおほせられず。

Q60. 現代語訳せよ。

御使ひ、まかり帰りぬ。

Q61. 現代語訳せよ。

「院は、いま御寝にて侍り」

Q62. 現代語訳せよ。

帝、御琵琶を召して、あそばす。

Q63. 現代語訳せよ。

上、いと心細く思しめすを、女房ども、とかく慰め奉る。

Q64. 現代語訳せよ。

帝、若宮の御顔を御覧じて、笑ませたまふ。

Q65. 現代語訳せよ。(会話文)

「さる人をなむ、昔見たまへし」

Q66. 現代語訳せよ。

院、御文を遣はす。

Q67. 現代語訳せよ。

中納言、御前にさぶらひて、御物語申す。

Q68. 現代語訳せよ。

「いとかしこき御方なれば、畏まり侍り」

Q69. 現代語訳せよ。

中宮、この歌を御覧じて、いみじく愛でたまふ。

Q70. 現代語訳せよ。

「もうで来つ。仕うまつるべきこと侍らば」

Q71. 現代語訳せよ。

中宮、上の御ために、僧どもに御祈りせさせたまふ。

Q72. 現代語訳せよ。

「御覧ぜさせ奉らばや」

Q73. 現代語訳せよ。

帝、かしこく御心を動かしたまふ。

Q74. 現代語訳せよ。

「御物を賜はり侍りぬ」

Q75. 現代語訳せよ。

御乳母、若君を抱き奉りて、まかり出づ。

Q76. 現代語訳せよ。

中宮の、御簾のうちにて仰せらるる御声、ほのかにて聞こえず。

Q77. 現代語訳せよ。

「さやうに仕うまつるべきやうにても侍らず」

Q78. 現代語訳せよ。

帝、御粥を少し召して、夜の御殿に入せたまふ。

Q79. 現代語訳せよ。

院、御衣を奉りて、御所より出でせたまふ。

Q80. 現代語訳せよ。

「まかり侍りて、承りたることを申し侍らむ」

応用編 / 30

【第4部】 入試レベル (Q81~Q100)

源氏物語・枕草子など難関大頻出箇所。

Q81. 現代語訳せよ。(源氏物語・桐壺)

いづれの御時にか、女御、更衣あまた候ひたまひける中に…

Q82. 現代語訳せよ。(源氏物語・桐壺)

いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。

Q83. 現代語訳せよ。(源氏物語・桐壺)

はじめより我はと思ひ上がりたまへる御方々、めざましきものにおとしめそねみたまふ。

Q84. 現代語訳せよ。(枕草子・第一段)

夏は夜。月の頃はさらなり、闇もなほ、螢の多く飛び違ひたる、また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

Q85. 現代語訳せよ。(枕草子・香炉峰の雪)

「少納言よ、香炉峰の雪、いかならむ」と仰せらるれば、御格子上げさせて、御簾を高く上げたれば、笑はせたまふ。

Q86. 現代語訳せよ。(源氏物語・若紫)

「雀の子を犬君が逃がしつる。伏籠の内に込めたりつるものを」とて、いと口惜しと思へり。

Q87. 現代語訳せよ。(伊勢物語・東下り)

「これなむ都鳥」と言ふを聞きて、…と詠めりければ、舟こぞりて泣きにけり。

Q88. 現代語訳せよ。(土佐日記)

男もすなる日記といふものを、女もしてみむとて、するなり。

Q89. 現代語訳せよ。(大鏡)

次の帝、花山院天皇と申しき。…永観二年八月二十八日、位につかせたまふ。御年十七。

Q90. 現代語訳せよ。

入道殿、このことをいとねたく**思しめし**けり。

Q91. 現代語訳せよ。(源氏物語・桐壺)

上達部、上人なども、あいなく目をそばめつつ、「いとまばゆき人の**御おぼえ**なり。唐土にも、かかる事の起こりにこそ、世も乱れあしかりけれ」と、…もてなやみぐさになりて、楊貴妃のためしも引き出でつべくなりゆくに、いとはしたなきこと多かれど、かたじけなき**御心ば**へのたぐひなきを頼みにてまじらひ**たまふ**。

Q92. 現代語訳せよ。(源氏物語・桐壺)

かしこき御蔭をば頼み**きこえ**ながら、おとしめ疵を求め**たまふ**人は多く、わが身はか弱くものはかなきありさまにて、なかなかなるもの思ひをぞし**たまふ**。

Q93. 現代語訳せよ。

宮の御覧じつる絵を、女房、上に**奉る**。

Q94. 現代語訳せよ。(大鏡・道長)

下臈におはしませど、前に立て**奉り**て、まづ射**させ奉らせたまひ**けるに、帥殿の矢数いま二つ劣り**たまひぬ**。

Q95. 現代語訳せよ。(源氏物語・夕顔)

「かの白く咲けるをなむ、夕顔と**申しはべる**」

Q96. 現代語訳せよ。(源氏物語・夕顔)

「花の名は人めきて、かうあやしき垣根になむ咲きはべりける」と申す。

Q97. 現代語訳せよ。(徒然草・第五十二段)

仁和寺にある法師、年寄るまで石清水を拝まざりければ、心憂く覚えて、ある時、思ひ立ちて、ただひとり、徒歩より詣でけり。

Q98. 現代語訳せよ。(更級日記)

あづま路の道のはてよりも、なほ奥つかたに生ひ出でたる人、いかばかりかはあやしかりけむを、いかに思ひはじめけることにか、世の中に物語といふもののあなるを、いかで見ばやと思ひつつ、…

Q99. 現代語訳せよ。(平家物語・敦盛最期)

熊谷涙をおさへて申しけるは、「助けまゐらせんとは存じ候へども、味方の軍兵、雲霞のごとく候ふ。よも逃れさせたまはじ。…」

Q100. 現代語訳せよ。(源氏物語・桐壺・冒頭の全体)

いづれの御時にか、女御、更衣あまた候ひたまひける中に、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。はじめより我はと思ひ上がりたまへる御方々、めざましきものにおとしめそねみたまふ。同じほど、それより下臈の更衣たちは、まして安からず。朝夕の宮仕へにつけても、人の心をのみ動かし、恨みを負ふ積もりにやありけむ、いと篤しくなりゆき、もの心細げに里がちなるを、いよいよあかずあはれなるものに思ほして、人のそしりをもえ憚らせたまはず、世のためしにもなりぬべき御もてなしなり。

採点振り返り

- 基礎 (Q1～Q20) : /20
 - 標準 (Q21～Q50) : /30
 - 応用 (Q51～Q80) : /30
 - 入試レベル (Q81～Q100) : /20
 - **合計 : /100**
-

あとがき

敬語の訳し方の核心 : - **尊敬** : お～になる／～なさる (動作主への敬意) - **謙譲** : お～する／～申し上げる (受け手への敬意) - **丁寧** : ～です／～ます／～ございます (聞き手への敬意)

二重敬語は最高位の敬意。両用語 (奉る・参る・賜ふ・給ふ) の文脈判別が難関。

古文現代語訳の **絶対必須スキル**。

著作権 : 個別指導塾フィット / 中本裕太
